

東日本大震災から10年。復興は進んではいますが、まだ震災前とは程遠い状況です。

東日本大震災復興支援募金に ご協力をお願いします。



ホームページに
支援のようすなど
詳しい情報を
掲載しています

宮城県
折浜・蛤浜
はまぐりはま



宮城県石巻市にある折浜・蛤浜は、小さな漁村です。震災後、船は流され、家は崩壊し、目を覆う惨状でした。そのような中、長年漁師として生きてきた蛤浜の亀山夫妻の心の支えになったのは、グリーンコープの支援物資に入れられていた1通の絵手紙だったそうです。

「生きていればきっと笑える時がくる」。亀山夫妻はこの言葉を胸に、もう一度立ち上がり、日々を繋いでこれたと言います。

2020年6月10日現在:亡くなられた方1万5899人、行方不明の方2529人。2020年12月8日現在:避難者4万3734人。東日本大震災で多くの家屋、工場、学校が大津波で流され、かけがえのない命が失われました。そして今もなお故郷に戻れず、避難生活を余儀なくされている方が多くおられます。グリーンコープはこれからも福島県、宮城県、岩手県の被災地支援活動の中で出会った方たちを応援し、東日本大震災復興応援商品を企画していきます。

3.11から10年たった今も4万人を超える方々が
自宅に帰還されず避難生活を余儀なくされています。

避難者の推移 (2020年12月8日 復興庁データ)

	2011年12月			2020年12月		
	県内	県外	計	県内	県外	計
岩手県	43,953	1,536	45,489	1,027	930	1,957
宮城県	122,557	8,603	131,160	1,287	3,768	5,055
福島県	95,200	59,464	154,664	7,415	29,307	36,722
計	261,710	69,603	331,313	9,729	34,005	43,734

花見山を守る会(福島県)

NPO花見山を守る会

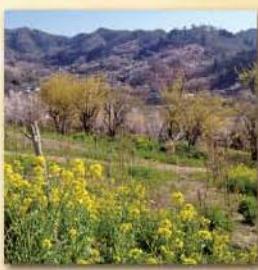
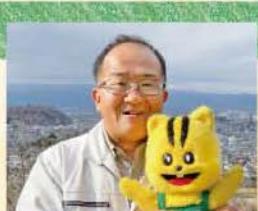
代表 高橋 真一さん

早春の候、皆様におかれましては元気でお過ごしのことと存じます。早いもので今年3月で東日本大震災から丸10年を迎えます。

グリーンコープの皆様には福島の復興のために心温まるご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。また、生活に困難を抱える方々、悩みを抱える方々に寄り添ってくださる皆様のお気持ちがなにより嬉しく、頭が下がる思いです。

当会「NPO花見山を守る会」は、生け花の里・花見山を守りながら、全ての人に元気になってもらいたいという思いを柱に活動をしてきました。これからも、どうぞ宜しくお願い致します。グリーンコープの皆様におかれましても、お身体を大切にお元気に過ごせますよう願っております。

ありがとうございました。



グリーンコープは
2015年に桜の木を
約200本植樹しました。

グリーンコープ共同体

代表理事 熊野 千恵美さん



12月のグリーンコープ共同体理事会で、組合員カンパのお届け先について決定しました。その一つをご紹介すると、福島県を通じて、災害孤児の学業応援をされている「花見山を守る会」の活動です。大震災で両親を亡くし、ひとりぼっちになってしまった子たちがいることを思うと、胸が締めつけられる思いです。「花見山を守る会」代表の高橋さんはそういう境遇の子どもたちに、元気に生きていいってほしいと寄り添い続けておられます。震災から10年が経過し、このような支援を続けておられるのは高橋さんの団体だけだそうです。このような現地の活動にカンパを届けることができるのは、組合員の皆さんからあたたかな気持ちが込められたカンパのおかげです。今年もご協力をよろしくお願いいたします。

東日本大震災復興支援募金

014 一口 200円 015 一口 500円

■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数を記入してください。

*【例】申込番号 014 の数量欄に「2」と記入された場合は、400円の
カンパとして受け付けさせていただきます。

何口でも申し込みます

カンパのお申し込みは51号・52号でできます。(3月8日~19日)

これまでの募金状況

組合員とお取引先・その他から寄せられた
募金総額 (2011年~2020年12月20日現在)

3億3172万9386円

支援に活用 2億8950万2109円

残高 4222万7277円

いのち “被災地を忘れない”生命に寄り添う支援がこれからも必要です。

大震災から10年の節目となり、今後、国や行政からの助成や委託は終了していきます。

グリーンコープはこれからも被災地に寄り添った支援活動を進めていきます。ぜひご協力をお願いします。

本チラシに記載の商品の価格や配達日などの詳細は、カタログGREENの表紙・2・3ページをご覧ください。

ひまわりプロジェクト

福島のNPO法人シャロームから届くひまわりの種を、全国の支援者が育て、種を収穫し、福島に送ります。種はひまわり油「みんなの手」に加工、販売されます。グリーンコープは、2014年から各生協のお店や施設などで、ひまわりを育て、種を送っています。収益金の一部は、放射線を気にせずに学んだり、外で思いきり活動するための支援（子どもひまわり大使など）に活用されています。



052

2019年度子どもひまわり大使の活動で、グリーンコープやまぐち生協を訪ね、組合員や組合員の子どもたちと交流しました。

2020年度はコロナ禍の中、台風による被害もありましたが約124kgのひまわりの種を福島にお届けすることができました。



ひまわり油
みんなの手
価格など詳しくはカタログGREEN3ページをご覧ください。

※残留放射能検査を行い、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず（検出限界未満）」を確認しています。

ひまわりの種収穫実績

2015年	120kg
2016年	40kg ※熊本地震の影響
2017年	82kg ※九州北部豪雨の影響
2018年	242kg ※西日本豪雨水害の中、収穫量増加
2019年	459kg ※九州北部大雨災害の中、収穫量大幅増加
2020年	124kg ※コロナ禍と収穫前の台風9号、10号の暴風等による被害

福島ぽかぽかプロジェクト

福島に住む子どもたちと家族のために、放射線量の低い地域で過ごしてもらう保養プログラムを継続しています。グリーンコープは、福島ぽかぽかプロジェクトからの相談を受け、グリーンコープの食べものを野外活動先に届けています。

プログラムの目的は、子どもたちが安心して野外で活動できることですが、保護者にとっても、不安な気持ちを話し合うことができる交流はとても大切なものとなっています。今後も、親子でのこころと身体の保養の場をサポートしていきます。

2020年はコロナ禍の中で一部自粛もましたが、9回のぽかぽかプロジェクトを開催し、グリーンコープから食材支援を行いました。



グリーンコープの支援内容
(2013年~2020年)

食材のお届け
米・野菜・びん牛乳・たまごなどを中心に76回
約7000点

ぽかぽかプロジェクトに参加されたご家族
延べ1900人
(1回当たり25人前後)

岩手・宮城での支援活動

公益財団法人

*共生地域創造財団の活動

宮城県 石巻事務所

石巻市ではこれまでの知見を活かし、住まいを失った方々への居住確保支援を開始しました。少ないながらもシェルターを確保し、生活を立てなおす基盤でもある住まいを探すお手伝いをしています。



※グリーンコープ、ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ生協が連携して、共生地域の創造を目指し、被災地の復興支援を行っている団体

岩手県 陸前高田事務所

地元企業の協力を得て就労機会を創出し、(株)バンザイ・ファクトリーの「椿茶」の製造には、就労訓練者が関わっています。また、コロナ禍ではIT系の就労支援を開始し、展開を検討中です。

岩手県 大槌事務所

岩手県大槌事務所では、昨年の台風19号の被害があった山田町に入り、コミュニティづくりへの支援を行っています。



岩手県 大船渡事務所

岩手県大船渡市では、引き続き在宅被災者、復興公営住宅入居者への見守り訪問と相談支援を行っています。

宮城県 東松島市

株式会社 高橋徳治商店

2011年3月11日、3つの工場の設備ラインも冷凍在庫も帳簿も全て流され、被害も分からず状況でしたが、79名のスタッフは全員無事でした。グリーンコープでは職員が本社、及び第2工場の片づけ、清掃に8月から入りました。その後2013年7月に東松島市に新工場を建設。2018年3月に、同工場内に隣接した就労支援の場としての冷凍野菜加工場を建設しました。復旧後のスタッフは43名。被災地の心の復興はまだまだこれからです。



024

おとうふ揚げ
3種セット(冷凍)

026

むき身えび
フライ

025

冷凍カットレモン

価格など詳しくは
カタログGREEN2ページ
をご覧ください。

※残留放射能検査を行い、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず（検出限界未満）」を確認しています。

岩手県 大船渡市

株式会社 バンザイ・ファクトリー

3.11の大津波で岩手県大船渡市も甚大な被害を受けました。多くの建物が流される中、気仙地区に昔から自生するヤブ椿は深く根を張り倒れにくく、沢山生き残ることができました。そして2012年春、紅色の椿の花が咲き誇りました。この光景を見た被災者は、大変勇気づけられたそうです。



697

椿茶 ティーパック

価格など詳しくはカタログ
GREEN表紙をご覧ください。

※残留放射能検査を行い、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず（検出限界未満）」を確認しています。濃縮抽出したお茶の残留放射能検査では、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず（検出限界未満）」を確認しています。

宮城県 女川町

一般社団法人コミュニティスペース うみねこ



039

柄おまかせ

ゆめ玉チャーム
(魚の耳石付)

数量限定
100個
1人1個

代表
八木 純子さん

グリーンコープとの出会いは震災の年。その出会いはとても衝撃的なものでした。震災後やっとの思いで始めた布草履づくり。複雑な思いの中で「復興応援チラシ」に入れていただきました。200足の予定がなんと1500足を越す注文数につくっていたおばあちゃんたちの歓声は強烈な印象として残っています。私自身もグリーンコープへの信頼、組織力そして一人ひとりの思いの強さ、心の温かさを、ほんとうに実感しました。時間がたてばたつほどその思いは更に強くなりました。現在は、「地域を楽しく豊かに」という事で地域づくりを、また、他団体とのコラボ商品づくりをし、「人が元気になり、地域が元気になり、辛い、苦しい心が癒されたらいいなあ。」と思っています。昨年の12月には福島県の「きらら会」との交流もしました。今後が楽しみです。

宮城県 石巻市雄勝町

エンドーすずり館

震災で、甚大な被害を受けた雄勝町。遠藤弘行さんは、大津波で自宅やすずり工房、多数のすずりやノミなどの工具をすべて失いました。すべてを失った後、雄勝を離れることが考えましたが、泥の中からお父様の作品が奇跡的に出てきたことで、もう一度すずりを作ることを決心しました。その後引退したすずり職人から道具を託され、流された材料の石も見つかり、プレハブを自宅跡地に建てて「エンドーすずり館」として2012年に再スタートしました。



038

雄勝硯(すずり)

価格など詳しくはカタログ
GREEN3ページをご覧ください。

数量限定
50個
1人1個

すずり石は大別して、黒石、白石、ネズミ石があります。今回の企画は雄勝すずりの白石です。雄勝の白石は著名な書道家により「日本一」と評されるほどです。白石はとても硬く、彫るのが大変で、1日2個しか作れないことから、数量限定企画となります。

宮城県 亘理町

株式会社“感謝”をつなぐ WATALIS

震災後、亘理町の女性たちが自立していくための生きがいや居場所づくりとして、古い着物を再利用し布小物を手作りする活動をしてきました。「高齢者と交流を深め、従来のものづくりに加え、新たに集う場を提供し、震災で散り散りになった住民のつながりを取り戻したい」と代表の引地恵さんは考え、2016年には地域に暮らす人たちが交流できるコミュニティカフェ「中町カフェー」をつくりました。現在WATALISは、女性たちの手仕事の活動とは別の活動にも取り組み始めています。亘理町で震災で大きな被害を受けた海岸林再生と地域の復興を目的とした「特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクト」に賛同し、地域住民と共に植樹を手伝うほか、活動の資金確保のために栽培されている落花生を使用した商品開発・販売にも力を入れています。



数量限定
22個
1人1個

FUGURO:
いちごストラップ
製きぬこコースター
きものキーホルダー

価格など詳しくはカタログ
GREEN3ページをご覧ください。



東日本大震災復興支援募金

014 一口 200円 015 一口 500円

■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数を記入してください。

※【例】申込番号 014 の数量欄に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

カンパのお申し込みは
51号・52号でできます
(3月8日~19日)

何口でも申し込みます



福島での支援活動

東京電力福島第一原発は廃炉が確定しましたが、グリーンコープが出会った福島の方々の復興はまだまだです。これまでに多くの組合員が福島を訪ね、被災地の状況を自分たちの目で確かめ、現地の方々とも交流を深めてきました。そこで分かったことは「今後も寄り添った支援・交流が必要」ということでした。



福島県 葛尾村

2016年に全村避難を解除。その後、葛力創造舎の下枝浩徳代表の呼びかけで「持続可能なコミュニティづくり」を掲げ、活動を支援する若者たちが葛尾村に集まり、村で栽培された農産物を加工して販売しています。遊休農地を活用して桜島大根も栽培され、今後は、農地の土手を活用してカボチャなどを生産する予定です。

グリーンコープは、2021年春に稼動することになっている、食品加工場の建設資金の一部を支援しました。



(一社)葛力創造舎 下枝浩徳代表

震災前の人口 約1500人 ▶ 現在の帰還者数+転入者 約320人



2019年は組合員が葛尾村を訪問し、田植えや稻刈りを村の皆さんと一緒に行うなど交流しました。



036

甘酒
葛尾村ノマッショ

価格など詳しくはカタログGREEN2ページをご覧ください。

※残留放射能検査を行い、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず(検出限界値未満)」を確認しています。

福島県 川内村

福島第一原発から20~30km圏内に位置する福島県川内村。川内村でNPO法人昭和横丁を運営する志田篤さんは、東京電力福島第一原発事故の発生直後から現在まで、高齢者に食材を提供する活動(横丁市場)や地域コミュニティづくりを続けています。

*共生地域創造財団では、キッチンカーの貸し出し、冷蔵庫設置やプレハブ店舗を支援するなど、「横丁市場」を運営する志田さんの活動をサポートしています。川内村に帰還された高齢者の方々の地域コミュニティが活性化するように、今後も見守りを続けていきます。

震災前の人口 約3000人 ▶ 現在の帰還者数 約2000人

※グリーンコープ、ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ生協が連携して、共生地域の創造を目指し、被災地の復興支援を行っている団体



2019年「横丁市場」のお茶会に参加した組合員



037

福島の絹子ばーちゃんの
針刺し

価格など詳しくはカタログGREEN
3ページをご覧ください。

数量限定
100個
1人1個



友誼団体 きらら会

志田さんの紹介を受け、グリーンコープは友誼団体きらら会と出会いました。

いくつになってもキラキラしたいとの思いで、会の名前が付けられました。針刺しを作ったきっかけは、震災前から親交のあったメンバーが、2017年まで仮設暮らしをする中で、同じ仮設に暮らしていた絹子ばーちゃんから、針刺しの作り方を教わったこと。川内村のたわいもない思い出話をしながら、夢中になって作りはじめたそうです。思い出のある着物の柄を見ながらの手仕事はとても楽しく、大震災での辛いことも忘れさせてくれると言われていました。時間も忘れ、メンバーで集まって手仕事をされています。

福島県 伊達市

震災前の人口 65,749人 ▶ 現在の帰還者数 58,515人

あぶくま食品株式会社

鈴木英孝社長は「大地震で天井が壊れ、設備、外壁も被害を受け大変でした。大津波による被害は、年月と共に復興、復旧できます。しかし、福島は原発事故の放射能汚染による風評被害と実害が現在も続いている、打撃を受け続けています」と語られました。



若桃を間引き収穫しているところ

種までやわらか、桃の香りが
広がります。

デザートにどうぞ！



625 若桃の甘露煮

価格など詳しくはカタログ
GREEN表紙をご覧ください。

※残留放射能検査を行い、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず(検出限界値未満)」を確認しています。

